



「周囲との調和を図った公園木の配植」と「外来種問題」への取組

助成区分	植樹	環境保全	調査・研究	教育・啓蒙		
実施状況	参加者数	236人	参加者満足度	100%	活動の全体目標に対する達成度	90%

活動目的

- ①公園樹林が生い茂ることにより、防犯面での安全性の低下や樹木同士の競合による生育不良等の問題が起きる等負のイメージが生じている。そのため公園樹木の評価を高めるための「公園樹木保全指針」を作成する
- ②サクラの幹や兵庫県の県木であるクスノキの葉を食害する外来昆虫について、情報収集及び啓発活動を実施することで被害拡散防止を図る。

活動内容

- ・「公園樹木保全指針」作成に当たる分担作業。(植栽樹種プラスマイナス要因の整理、骨格を形成する樹種、季節の彩りを演出する樹種の選定、根系の考え方)
- ・公園樹木管理に関する情報収集(講演会・聞取)
- ・過密状態にある公園樹木の整理(間伐)手法の確立(右写真)
- ・元気にさせたい公園樹木の治療技能の実践。
- ・外来種昆虫に対する情報収集と啓発活動(チラシ配布・講演会開催)
- ・外来種昆虫防除対策として兵庫県下での生育調査



成果

- ・今事業に参加した造園業、造園資材、コンサルティング、有料公園管理者、行政出身者が「公園樹木保全」に関する考えを共有することで、視野が広がった。
- ・健全な樹林地を育成するための密度管理や管理手法の提言を行うことで、都市公園の環境向上に寄与できた。
- ・今事業において外来昆虫の生態や被害状況を把握し、啓発活動・生育調査及び捕獲作業を行うことによって、早期発見・早期防除が可能となり、その結果、被害拡散防止に大きく貢献できた。(右写真)



工夫した点

- ・公園樹木の元気にする樹木医技能を理解するため実践。その様子について一般の方々に対してもガイドを実施したことで、事業のPRにも繋がった。
- ・植物構造や生理、あるいは外来昆虫防除に取り組んでいる研究機関の方々と交流する機会を、講演会や実習を通じて得ることができた。その結果、「樹木保全」に関する今後の取組の展開が期待される。(次年講演会を実施)



今後の課題

- ・公園樹木の植栽方法の誤りにより、生育不良の木が多く見られたため、正しい方法についての啓発が必要。(写真①)
- ・桜の木を食害する外来昆虫「クビアカツヤカミキリ」についての効果的な防除対策の開発が期待される。(写真②)

